河内 信幸
KAWAUCHI Nobuyuki

教授 国際関係学部国際文化学科
【学位】博士（文学）（金沢大学）
【学歴】立教大学大学院文学研究科

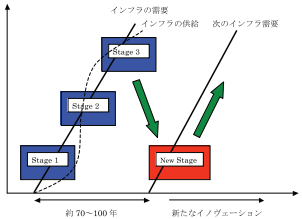
専門分野 アメリカ現代史、国際関係史

研究テーマ 「グリーン・ニューディール」の国際化とパラダイム・シフト

「グリーン・ニューディール」とインフラ・イノヴェーション

［備考］Stage 1：公共主導でインフラ整備の推進
Stage 2：インフラの供給過剰を民間企業の参入で是正
Stage 3：新たなインフラ・ニーズによって公的な構想
New Stage：新たなパラダイムシフトの公共主導のインフラ推進

［出所］井熊均編著『グリーン・ニューディールで始まるインフラ大転換』（日刊工業新聞社、2009年）、18頁を参考にして作成。
Cf. *Infrastructure for the 21st Century*（Washington, D.C.: National Academy Press, 1987）.



世界の「グリーン・ニューディール」

ＥＵ

2008年11月:合計2000億ユーロ（23.7兆円、GDP比1.5%）を計上し、雇用創出およびイノベーションへの投資を行う。 2009年3月:環境に配慮した「グリーン経済」に1050億ユーロを投入し、欧州がグリーン技術の分野で世界のリーダーになる。

イギリス

2008年6月:ブラウン首相が低炭素社会への移行を提唱。自然・再生可能エネルギーを現在の10倍に増やし、2020年までに洋上風力発電に1000億ポンド以上の投資を呼び込み、16万人の新規雇用を目指す。

ドイツ

2008年11月・2009年1月:総額1000億ユーロ規模の大型景気刺激策を発表。2009年4月:連立与党が排ガス基準を満たす新車購入を60万台から200万台に増やし、同時に25万人の雇用を確保すると発表。

フランス

2008年12月:景気復興計画（リバイバルプラン）として、2009～2010の2年間で260億ユーロを投じる景気対策を発表し、2009年に8～11万人の雇用創出を目指す。

韓国

2009年1月:雇用創出のための「緑色ニューディール事業」を発表。2012年までの4年間に総額50兆ウォン（約3.3兆円）を投入し、約95万6000人の雇用創出を目指す。

中国

2008年11月:景気対策として、2010年末までに総額4兆元（約57兆円）を投入する計画を発表。2009年の環境・省エネ投資は120億元。

日本

2009年4月:環境省が「緑の経済と社会の変革」を発表し、世界最高水準の技術をもつ環境分野へ戦略的な投資を行い、経済成長や雇用創出につなげていくと提唱。2020年までに120兆円（現在の1.7倍）の環境市場、280万人（現在の約2倍）の雇用を期待。

［出所］環境省:http://www.env.go.jp/guide/info/gnd/

研 究 紹 介

世界史のなかの1930年代は世界恐慌の時期であり、資本主義システムの矛盾とファシズムの台頭が顕在化した時代であった。第二次大戦後の世界は、この社会的危機を教訓にして、政治や経済を安定化させる国際システムの構築を模索した。しかし、それは冷戦構造という対立した国際関係を内包した国際システムであったため、1989年12月のマルタ会談によって冷戦の終焉が決まると、グローバリゼーションの波に乗って多くの矛盾や対立が世界中に蔓延した。

しかも、2008年9月の“リーマン・ショック”から世界同時不況が広がるとともに、地球温暖化や気候変動の深刻さが私たち人類の生存をも脅かす事態となった。そのため、アメリカのオバマ政権を始めとして、世界の多くの国々によって「グリーン・ニューディール」が提唱され、環境・エネルギー政策と地球温暖化・気候変動対策を梃子に、新たなビジネス・モデルと社会システムの構築が模索されている。

〈参考文献〉

＊河内信幸編『グローバル・クライシス —世界化する社会的危機—』（風媒社、2011年）
＊河内信幸『ニューディール体制論 —大恐慌下のアメリカ社会—』（学術出版会、2005年）